

高大接続プログラムにも力を入れています！

東京農工大学では、将来、研究者・技術者として活躍したいと考えている高校生に、大学の研究を体験できるプログラムを開講しています。プログラムを受講した高校生の東京農工大学進学者も増加しています。

GIYSEプログラム(高1~2生対象)

Global Innovation program for Young Scientists and Engineers

将来、科学の専門分野で国境を越えて活躍する研究者、技術者を目指す高校生のためのプログラム。JST(科学技術振興機構)次世代人材育成事業「グローバルサイエンスキャンパス」の採択事業です。クラスステージでは、講義・グループワーク、実験、英語演習など大学の教育内容を先取りして経験。ラボステージでは、農・工の研究室で個別の課題研究を行い、海外の先端研究者のアドバイスを受けることも可能です。最終的に学会発表、論文投稿を目指します。



大学ウェブサイト

<https://www.tuat.ac.jp/>

本学の旬なニュース、イベント情報などを随時更新しています。大学紹介動画もご覧いただけますので、ぜひチェックしてください。



Facebook

学生の活躍やイベント情報、先生のメディア出演予定をお知らせします！

学生の研究成果が評価され、学会などで表彰を受けた報告や、教員の研究がマスコミで取り上げられた情報など、見どころ満載でアップしていきます。ぜひご覧ください！



表紙写真

工学部 知能情報システム工学科
近藤研究室
(担当: 近藤敏之 教授)

生物の情報処理機構の機能解明が研究テーマ。解明したモデルを適応型ヒューマン・インターフェースとして実用することをめざしています。

IGSプログラム(高2生対象)

Introduction to Global Science

理科系の実験、実習、グループワーク体験プログラム。将来、科学の専門分野で活躍する研究者、技術者を目指す高校生が対象です。地球は食料、エネルギー、環境など、解決すべき様々な課題を抱えています。また、人間が安心して快適に暮らすために、ライフサイエンスや最先端技術など科学のさらなる発展が期待されています。次世代の研究者・技術者を目指す高校生のために、大学の研究、教育内容を少し先取りして経験できるプログラムを用意しています。



受験生向け特別サイト

受験生の気になるキャンパスライフ情報を大公開！

研究室やサークル、農工大生の1日の様子、活躍する卒業生など、学生生活の情報をご紹介します。受験生の皆様へ向けた情報もご覧いただけます。



Twitter

@TUAT_all

東京農工大学の“今”をつぶやきます！

プレスリリースやイベント情報、サークルの活動、卒業生の近況など、バラエティに富んだ内容でつぶやいています。ぜひフォローしてください！



東京農工大学基金のご案内: 東京農工大学では、2024年の創基150周年に向けて、学生等に対する支援事業を充実するため、東京農工大学基金を募集しております。この基金は、学生の留学支援など国際交流事業の強化や健全な学生生活のための環境支援等に活用してまいります。皆様からのご支援とご協力をお願いいたします。
<https://www.tuat.ac.jp/outline/executive/fund/index.html>

TUAT Express

この冊子は最近の東京農工大学の活動をお伝えするものです

2019-2020

工学部 知能情報システム工学科 近藤研究室の皆さん



CONTENTS

■活躍する卒業生 ■研究室教育 ■キャンパスライフ ■就職実績 ■海外留学・国際交流 ■高大接続プログラム

最先端で活躍する農工大卒業生

東京農工大学で学んだ卒業生たちは、学術研究分野のほか、産業界など社会で広く高い評価を受けています。第一線で活躍する卒業生2名に話を聞きました。

Agriculture



日本エヌ・ユー・エス株式会社/
環境事業本部/地球環境ユニット

清水亜希子さん

2011年3月、東京農工大学大学院農学府物質循環環境科学専攻修士課程修了。学生時代は管弦楽団に所属し、初心者ながらピアノに挑戦。勉強と両立した忙しい日々を過ごした。

Technology



株式会社ニコン/ヘルスケア事業部/
技術統括部/設計部/第一設計課

二牟禮すみれさん

2017年3月、東京農工大学大学院工学府機械システム工学専攻博士前期課程修了。在学中、政府の奨学金を得て、カナダのウォータールー大学で、半年間の留学を経験した。

環境に関する最新データを収集し、官公庁の政策を支える

東京農工大学の農学部には、環境資源科学科という環境や資源をテーマにした学科があります。私はここで培った知識とネットワークをフル活用して、今の仕事に取り組んでいます。

現在、勤務している日本エヌ・ユー・エスは、環境・エネルギー分野の調査・コンサルティングを行う企業で、私は特に大気汚染や水中の化学物質の影響に関する調査や資料作成を行っています。主要なクライアントは環境省で、新しい政策を打ち出す際に、その根拠となるデータや知見を収集し、計画立案を下支えするのが私たちの役割です。日々の主な業務は、国内外の研究論文を読み込んだり、大学教員など専門家の話を聞きに行った

りすること。ときには、全国から専門家を集め、会議の場をセッティングすることもあります。大学時代から環境分野の研究を続けてきたので、興味がある分野の世界最先端の情報が得られるこの仕事が本当に楽しいです。

環境分野に興味を持ったのは、高校時代に遡ります。『奪われし未来』という、環境ホルモンに関するベストセラー書籍を読んで、この分野を専門的に学びたいと考え、東京農工大学の農学部に進学しました。

在学中は、高田秀重教授の研究室で、環境中の医薬品による汚染実態の把握をテーマとした研究に取り組みました。私たちが日常的に使っている抗生物質などの医薬品がトイレから下水道を経て、河川に流入している実態

を突き止め、その影響を調べました。実験のフィールドは日本だけに留まらず海外にも及び、当時は年1回ベトナムで水質調査を行っていました。高田先生から学んだのは、「現場を知ること」の大切さ。資料や論文を読み込むことも重要ですが、現場を見なければ本質はわからないことを痛感しました。高田先生とは現在も交流があり、最近も沖縄で海洋ごみの調査を共同で行っています。

今の仕事に大きなやりがいを感じる一方、最近では自分自身も環境保全のために何かできないかと考えます。大学時代から積み上げた知識と経験を活かして、もっともっと多くの人に環境に対する意識を持ってもらえるように情報発信をしていきたいと思っています。

世界中の人が利用する革新的な眼科機器を開発したい!

ニコンのヘルスケア事業部で、眼科の医療機器の開発に携わっています。これは、グループ会社であるイギリスOptos社との共同開発プロジェクトで、ニコンが培ってきたカメラやレンズの技術を医療分野に応用する、社内でもかなり新しい挑戦ができる仕事です。

私はここで、眼科機器の新製品の評価実験を担当しています。まず、どうしたら正しく性能を評価できるか考え、自ら計測装置を設計し、実験を行います。ゼロから自由な発想でものづくりができるのは、新しい部署ならではの楽しさだと思います。

学生時代は、工学部機械システム工学科のベンチャー・ジェンチェン教授の研究室に所属し、「人体運動学」をテーマにした研究に取

り組んでいました。これは、ヒトの動作を力学的に表すことを目的とした研究分野。例えば、ヒトが立ち上がるときにどれくらいの力がかかるのかを物理的な実験やコンピュータシミュレーションによって解析し、数値化していきます。研究室全体としては、こうして入手したデータをロボットを使ったりハビリテーションなどに応用することを目的として、幅広い研究を行っていました。技術と医療の融合領域という点で、今の仕事にもつながる発想力をここで養えた気がしています。

また、グローバルな研究環境もベンチャー研究室の大きな特長で、私は修士課程1年次にカナダで半年、フランスで1か月半の研究留学を経験。ベンチャー先生のネットワーク

を利用させてもらい、自分の専門領域の最先端の研究現場を見て、大いに視野を広げることができました。修士課程2年次には、メキシコでの国際学会の発表にも挑戦。こうしたグローバルな研究活動をアピールし、今の会社からの内定を獲得することができました。

将来の夢は、やはり自分の手で新しい製品をゼロから生み出すこと。世界中の人が利用する眼科機器を開発するのが目標です。もちろん研究の過程で、海外勤務のチャンスがあれば、ぜひ挑戦したい。そのときに備えて、今は海外の技術者とディスカッションできるレベルの英語力を身につけるために勉強中です。研究室で鍛えたグローバル感覚を社会でも必ず活かしたいと思っています。

研究室で身につく専門性と社会人力

東京農工大学の学びの拠点はなんといっても研究室。
熱心な教員の丁寧な指導のもとで専門性と社会人力が鍛えられます。

Forest Management

農学部 地域生態システム学科 森林経営学研究室

持続可能な社会の実現のために、「森林」と「社会」の関わりを考える

現代の社会における森林の役割は、木材の生産だけではありません。地球温暖化の緩和や生物多様性の保全など、環境保全のためのさまざまな機能が求められているのです。当研究室では、統計分析やフィールドワークを通じて、森林と人間の経済活動の関わりを研究しています。

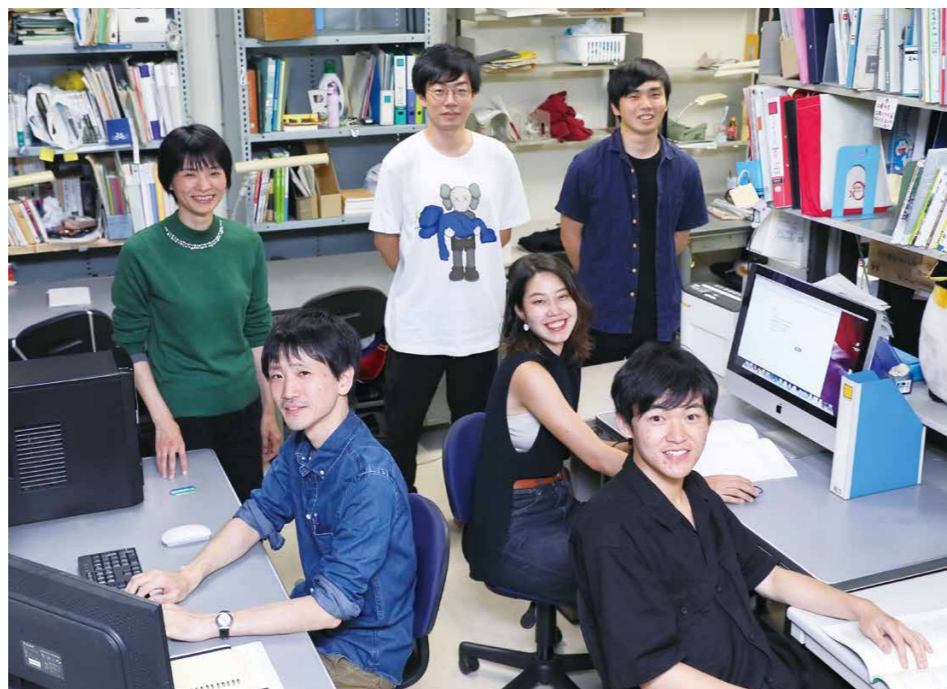
森林の未来を考えるためには「自然環境」と「社会経済」の双方向からのアプローチが欠かせません。例えば、「ライフサイクルアセスメント」という環境評価手法に基づき、森林の伐採、運搬、加工から実際に木材として使用するまでにどれくらいエネルギーが使われているのか。また、ある地域の森林から伐採した木材資源を建築などの構造物に使用することで、現地にどれくらい雇用創出などの効果をもたらすのか。社会・経済の視点から、木材の有効利用のあり方を調べています。

また、木材の大きな機能として、光合成によって生成した炭素化合物を貯蔵する「炭素



森林と木材の炭素循環(左:森林、右:木材)

貯蔵」の役割があります。森林は大気中の二酸化炭素を吸収する機能を担っていますが、伐採されて木材として加工された後も、炭素を内部に貯蔵し続けてくれるのです。「環境保全」と聞くと森林保護だけに目が向けられがちですが、建物や家具などに使用される木材は長期にわたって人間社会に留まるため、地球温暖化対策を考えるうえでも非常に重要



スタートして8年目を迎えた研究室は、和気あいあいとした雰囲気。

農学部 地域生態システム学科

加用千裕 准教授

東京大学大学院工学系研究科博士課程修了。博士(工学)。国立環境研究所特別研究員を経て、2012年から東京農工大学で指導にあたる。



です。統計分析によって社会全体の木材の炭素貯蔵量を明らかにし、炭素の循環フローを解明するのも当研究室のテーマのひとつ。世界各国の木材に関する膨大なデータを分析することで、グローバルな視点から環境問題に取り組むこともできます。こうしたアプローチが、持続可能な社会の構築への第一歩になるのです。

Biomedical Electronic Devices

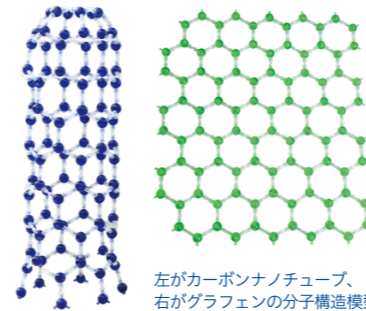
工学部 生体医用システム工学科 前橋研究室

特殊な炭素物質「グラフェン」をバイオセンサの開発に応用する

みなさんは「グラフェン」という物質をご存知でしょうか？これは、鉛筆の芯に使われる黒鉛やダイヤモンドと同じく、炭素原子が結合してできたもの。驚異的な薄さやダイヤモンド以上の強靭さ、伝導性に優れているといった特殊な性質を活かしてさまざまな製品開発に役立てられています。当研究室では、このグラフェンを用いて疾病の早期発見や環境モニタリングに活用できるナノデバイスの開発に取り組んでいます。

わかりやすい応用例として、「バイオセンサ」があります。これは、がんに代表される疾病を発見する検査デバイスに用いるもの。グラフェンを使った素子に血液や尿、唾液などを乗せると電流値が変化し、がん細胞や細菌物質を検出できる可能性があります。実現すれば、わざわざ病院で検診を受けなくても自宅で病気を未然に防ぐことができます。

グラフェンが注目を集めるようになったの



左がカーボンナノチューブ、右がグラフェンの分子構造模型

は、この物質を開発した研究者がノーベル物理学賞を受賞した2010年のこと。こうした比較的新しい物質を用いて、今までこの世界になかったデバイスの開発に挑戦できるのがこの研究の面白さだと思います。

この研究を通して、学生に身につけてほしいのは、マイクロとマクロの視点です。グラフェンの生成やデバイス作製といったマイクロな

実験結果を疾病の早期発見や環境問題の解決といったマクロな社会課題の解決につなげるプロセスを学んでほしいと思っています。

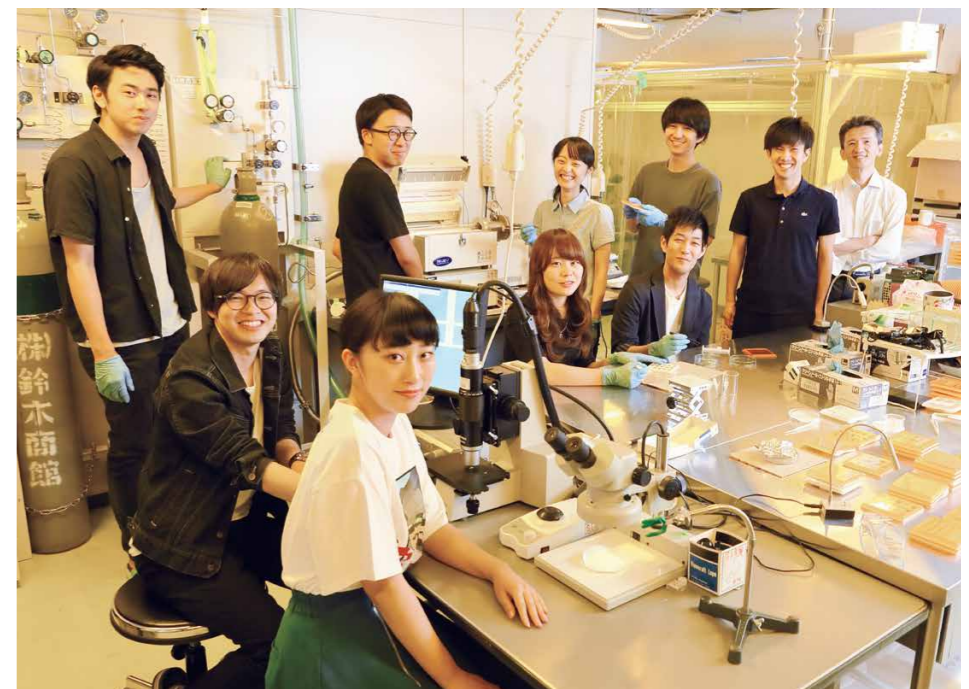
生体医用システム工学科は、電気電子工学、機械システム工学、物理システム工学といった分野が融合してできた学科です。多分野融合型の最先端の研究に興味がある人なら必ず夢中になれるテーマが見つかると思います。



工学部 生体医用システム工学科

前橋兼三 教授

大阪大学大学院工学研究科 博士前期課程卒業。博士(工学)。大阪大学産業科学研究科助手、准教授を経て、2014年から東京農工大学で指導にあたる。



スタートから6年目を迎える研究室。グラフェンやカーボンナノチューブを用いて個々の研究に励んでいます。



大学院農学府
自然環境保全学専攻修士課程2年

須鎗秋桜子さん

徳島県立城東高校出身

世界各国の木材の炭素貯蔵量の変遷と将来予測を調べています。国ごとに報告されている膨大なデータを収集し、評価のパラメータを調整することで、炭素貯蔵量の調査手法の確立をめざしています。

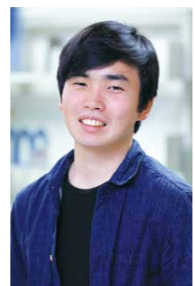


大学院連合農学研究科
環境資源共生科学専攻修士課程1年

藤田智郁さん

私立日本大学三島高校出身

研究テーマは「土木分野での木材利用における経済波及効果」。木材利用がもたらす地域への経済効果を、フィールドワークなどを通じて定量的に評価し、地域振興に貢献したいと思っています。



農学部
地域生態システム学科 4年

松本遼斗さん

私立森村学園高等学校出身

都市部の木造建築物の総床面積から、使用されている木材の炭素貯蔵量を算出する研究に取り組んでいます。まだ研究が進んでいない分野なので、自分の手でデータを掘り下げていく楽しさがあります。



工学部物理システム工学科4年

武末葉奈さん

私立鳴友学園女子高校出身

グラフェンを用いた検査デバイスで血中のドーパミン濃度を測定し、パーキンソン病などの診断に役立てる研究に挑戦中です。卒業後は、大学院に進学して、バイオ系の知識をさらに深める予定です。



大学院工学府
物理システム工学専攻修士課程1年

中西竜太さん

愛知県立岡崎高校出身

大気中の汚染物質を測定するナノデバイスを開発しています。現在は二酸化窒素の検出にターゲットを絞っていて、いずれはこの小型デバイスで多様な物質を検出できるようにするのが今後の目標です。



大学院生物システム応用科学府
食料エネルギーシステム科学専攻
一貫性博士課程3年

坂本優莉さん

私立普連土学園高校出身

食品に付着した微生物をそれらが発する微量のガスで検知する検出原理の研究やセンサ開発に挑戦中。企業との共同研究やフィンランドへの研究留学を通じ、社会問題を視野に入れた研究を進めています。

農工大生はサークル活動も全力投球!!

東京農工大学では、共通の興味をもった学生が運動部や文化系サークルなどに集い、アクティブに活動しています。講義や実験と並行して、充実したキャンパスライフを送り、より豊かな人間性を育てている4団体を紹介します。

硬式テニス部

TUAT Tennis Club



練習の合間には、部員みんなでキャンプに出かけることや部室で鍋パーティをすることもあります！中央列一番右がキャプテンの七夕裕作さん



目標だったリーグ昇格を達成。
未経験者も大活躍しています！

工学部 電気電子工学科 2年 七夕裕作さん

硬式テニス部は府中キャンパスのクレーコートで週4回の練習に励んでいます。男女合わせて15名の部員の中には未経験者も5名在籍。男女や経験者、未経験者が入り混じった環境が特徴です。私たちの主な活動目標は、「関東理科大学硬式庭球連盟リーグ戦」で結果を出すこと。目標にしてきた男子団体戦のリーグ昇格、2019年10月に大事な試合を4つ勝ち抜き、今までの4部から3部へ昇格を果たすことができました。女子も現在は3部に属しているので、次は男女ともに2部へ昇格することを目標にします。大会では未経験だった部員が大活躍している現状もあるので、練習の質は我が部活のストロングポイントだと思います！

宇宙工学研究部Lightus

Lightus - TUAT Space Engineering Club



部員ごとに適材適所で担当がわかれているので、どんな学生も自分にあった活動に取り組むことができます！左から2番目が部長の荒木さん



学生同士で意見を出し合い
夢のロケット製作に挑戦中！

工学部 電気電子工学科 3年 荒木信乃介さん

ロケットやCanSat（缶サット＝飲料缶サイズの模擬小型衛星）の製作に取り組んでいます。日々の活動の成果は、8月に秋田県で開催される「能代宇宙イベント」と3月の「伊豆大島共同打上実験」で披露します。

部員は約30名。機械システム工学科の学生が大半ですが、私のような電気電子工学科*の学生から農学部生まで、ものづくりや宇宙に興味のある学生が集まっています。予算管理や製作進行なども含め、学生が主体となっていく活動は、授業では経験できないことばかり。部員それぞれが活発に意見を出し合い、夢のロケット製作に向けて試行錯誤しています。大会では企業の方から講評もいただけるので、実践的な学びが得られますよ！

*2019年4月に改組済

ピアノ部

TUAT Piano Club



練習室ではいつでも自由にピアノが弾けるので、授業の空き時間にはいつも部員が集まってそれぞれ練習しています。前列左から5番目が部長の内山雄介さん



好きな曲を自由に演奏できる、
初心者大歓迎のクラブです！

農学部 地域生態システム学科 3年 内山雄介さん

クラシック、ジャズ、ポップス、アニメソング……。東京農工大学のピアノ部は、自分の好きな楽曲を自由に演奏できるのが特長です。部員は50名で、そのうち半分は大学からピアノを始めた学生です。「初心者が楽しめるクラブにしよう」というのがピアノ部のテーマ。初めてピアノに触れる人にも経験者が丁寧に教えます。未経験者でも、3年も練習すればかなりの腕前になりますよ。

コンサートは年に2回、夏と冬に開催しています。ピアノは個人プレーだと思われがちですが、チームで切磋琢磨することでどんどんスキルも上がります。今年で創部70周年を迎える伝統あるクラブなので、今後も楽しい雰囲気でも継続させていくのが目標です。

耕地の会

Kouchi no kai



ファームステイのほかにも、府中本町畑で「田んぼの学校」という小学生向けの農業実習や、田んぼの代掻きを兼ねた「泥リンピック」というイベントを開催しています。前列中央が部長の大井菜ノ香さん



農家の方と交流を深める
ファームステイが人気です！

農学部 環境資源科学科 2年 大井菜ノ香さん

耕地の会は文字通り、野菜やお米を育てる農業サークルです。現在は、100名近い部員が在籍しており、キャンパス周辺の府中と小平に畑を借りて作物を育てているほか、宮城県、新潟県、福島県の農家で合宿型の農業研修やファームステイを行っています。

合宿は年に何度も実施しているので、授業や他のサークル活動の都合に合わせて参加可能です。酪農や畑仕事を体験できる柿崎合宿、「黒米」という古代米を育てる浦田合宿、りんごの摘果やブルーベリーの収穫を行う喜多方合宿、竹切りや養蚕の体験ができる丸森合宿と、各地で貴重な体験ができます。

農家の方と交流を深めながら農業の知識も身につく、農工大ならではのサークルです。

就職実績も堅実！農工大生の進路

2018年度実績 2019年5月1日現在

就職実績

東京農工大学の卒業生・修了生は、就職先から高い評価をいただき、毎年多くの求人募集が届きます。一般企業や官公庁、地方自治体などで社会人としての歩みをスタートさせ、さまざまな第一線で活躍しています。

農学部

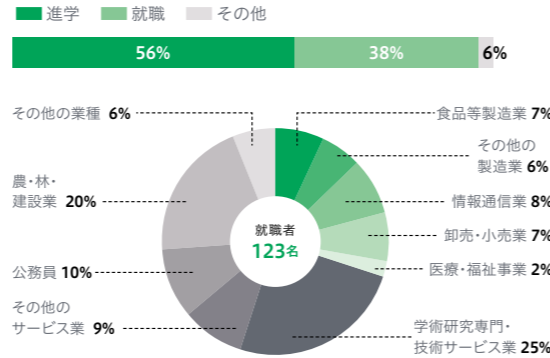
【生物生産学科】全国農業協同組合連合会(2名)、TOKYOフレッシュ、東京青果(2名)、キューソー流通システム、ジェイウェル、ロッテ、ユニアデックス、デジタルデータソリューション、カンロ製菓、ヤクルト(2名)、シタシオンジャパン、ユアソフト、進学／東京農工大学(28名)、東京大学、千葉大学、筑波大学

【応用生物科学科】日本生活協同組合連合会、コーセー、クー、共同エンジニアリング、進学／東京農工大学(61名)、東京大学(4名)、東京工業大学

【環境資源科学科】中外テクノス、富士通、PCIソリューションズ、進学／東京農工大学(46名)

【地域生態システム学】パルシステム生活協同組合連合会、日本基幹産業労働組合連合会、砂防・地すべり技術センター、水資源機構、エス・ティ・ティ・データ・ウェア、西武造園、システナ、エム・シー・ファシリティーズ、JA東日本くみあい飼料、物林、レッドビジョン、パシフィックコンサルタンツ、芝園開発、パーソルプロセス&テクノロジー、ダイフク、大和ハウス工業、協和コンサルタンツ、日本製紙、ジェイエーシーリクルートメント、日本政策金融公庫、らくだスタジオ、セントランス、宮地商会、クラシエホームプロダクツ、柏露酒造、進学／東京農工大学(31名)、東京大学、山形大学(2名)、首都大学東京、京都大学

【共同獣医学科】全国農業共済協会、オホーツク農業共済組合、鳥根県農業共済組合、日本CRO協会、デュボン、タブリエ・コミュニケーションズ、花王、瑞穂農場、日本ライフライン、日生研、中部飼料、EAファーマ、エーザイ、森永乳業、全業工業、イオンペット、タヤけの丘動物病院、プリモ動物病院、ワールド動物病院、パンダ動物病院、ウイル動物病院グループ、ヴァンケット動物病院、もりかわ動物病院、東京大学大学院農学生命科学研究科附属動物医療センター、こごわ犬猫病院、たかなし動物病院、Sho Animal Clinic、三鷹獣医科グループ、進学／東京農工大学



農学府

【生物生産科学専攻】全国農業協同組合連合会、日本原子力研究開発機構、日本食品分析センター、全国農業会議所、東京新宿ベジフル、朝日工業、キティー、いなば食品、グリーブストーン、グローバル電子、飯田電機工業、日本農産工業、エス・ティ・ティ・コミュニケーションズ、日本ビュアテック、三井化学アグロ、クラレ、サッポロビール、ニチレイバイオサイエンス、昭和産業、日清フーズ、伊藤ハム、日本コントロールシステム、リクルートキャリア、アリミノ、進学／東京農工大学(5名)

【共生活持続社会学専攻】高等学校教諭、JKA、朝日広告社、DYM、東日本旅客鉄道、日立物流、進学／東京農工大学(2名)

【応用生命化学専攻】日本食品分析センター(3名)、日本食品化工、曾田香料、OKIソフトウェア、武蔵野化学研究所、ロッテ、ソントン、花王、キュービー、中外製薬工業、大関、太陽油脂、日光ケミカルズ、ロンシール工業、ハウス食品、タカラバイオ、日清オイログループ、ライオン、日本水産、ユニテックフーズ、NTTデータ・スマートソーシング、かどや製油、雪印メグミルク、小川香料、シーボック、第一三共バイオテック、タマノイ酢、明治、ニチレイバイオサイエンス、進学／東京農工大学

【生物制御科学専攻】全国農業協同組合連合会(3名)、中・高等学校教諭、ハウス食品、高砂香料工業、日本色材工業研究所、HIROTSUバイオサイエンス、DHC、リテールシステムサービス、日本たばこ産業、日本マイクロバイオファーマ、日本コンスターチ、デイスベンパックスジャパン、シンジェンタジャパン、信越ポリマー、シュクレイ、エムケーチーズ、進学／東京農工大学(4名)

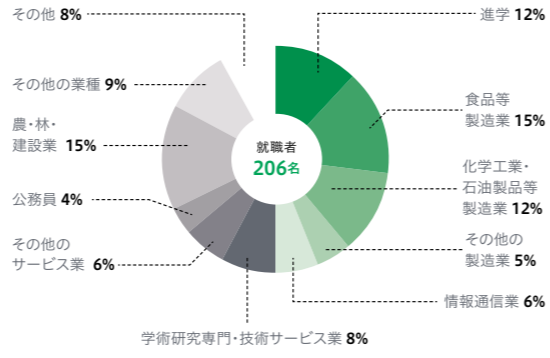
【環境資源物質科学専攻】科学技術振興機構、ノダ、住友林業、国際航空、レンゴウ、加藤木材工業、伊藤園、日本毛織、大昭和紙工業、東洋インキSCホールディングス、カルモア、日本製紙クレシア、東京楽天地、大建工業、日本郵便、リンク・インタラク、永大産業、進学／東京農工大学(2名)

【物質循環環境科学専攻】産業技術総合研究所、日本アイ・ピー・エム、S.O.W.ホールディングス、クアーズテック、クボタ環境サービス、エヌエス環境、エノテカ、ネクストエナジー・アンド・リソース、新菱冷熱工業、国際石油開発帝石、パナソニック環境エンジニアリング、日立化成、高田工業所、進学／東京農工大学(2名)

【自然環境保全科学専攻】エス・ジー、山と溪谷社、日本製紙、ヤマハミュージックジャパン、日比谷アメニス、イビデングリーンテック、西武造園、北海道総合技術研究所、日本レストランエンタプライズ、進学／東京農工大学

【農業環境工学専攻】農業・食品産業技術総合研究機構、ライト工業、構造計画研究所、日立プラントサービス、ヤンマー、東京ガスリビングエンジニアリング、千代田化工建設、進学／東京農工大学

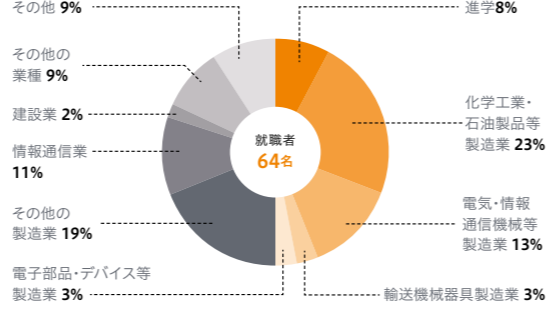
【国際環境農学専攻】農林水産省、Ministry of Water Resources and Meteorology、家の光協会、Yezin Agricultural University、カネカ、五洋建設、味の素冷凍食品、OKIソフトウェア、BFT、三祐コンサルタンツ、日本検査、進学／東京農工大学(6名)



生物システム応用科学府

【生物機能システム科学専攻】神奈川県、日立化成(2名)、ダイキン工業(2名)、理研鍛造、信越化学工業、ニチハ、アデカ、東洋紡、日東電工、三菱重工業、エス・ティ・ティ・データ、ミヤリサン製菓、日本たばこ産業、日産自動車(2名)、トクヤマ(3名)、パナソニック、住友重機械工業、イシダ、ライオン、UACJ、ソニー、日立製作所、日本航空電子工業、富士フィルムソフトウェア、日立建機、JALUX、読売新聞東京本社、太平洋セメント、堀場エステック、東京応化工業、JXエンジニアリング、三菱ケミカル、アイエム、北陸電力、セコム、キヤノン(2名)、ADEKA、WDB、大日精化工業、横浜ゴム、三菱電機、日本電信電話、トヨタ自動車、イー・アンド・ティ、富士フィルムイメージングシステムズ、ソニーネットワークコミュニケーションズ、日本総合研究所、進学／東京農工大学(5名)

【共同先進健康科学専攻】日本化薬、シノテスト、テルモ



工学部

【生命工学科】鳥取県、鳥根県、熊本市、材料科学技術振興財団、東京エスオーシー、オリンパス、テイルウィンドシステム、MICメディカル、DXCテクノロジー、ABI、進学／東京農工大学(71名)、東京医科歯科大学(2名)、奈良先端科学技術大学院大学、東京大学(2名)

【応用分子化学科】新潟東港地城水道用供水供給企業団、コープみらい、山下ゴム、住友理工、NECソリューションイノベータ、東海カーボン、キヤノンアネルバ、クノール食品、進学／東京農工大学(29名)、東京大学(5名)、筑波大学、奈良先端科学技術大学院大学

【有機材料化学科】NTTコムウェア、TSP、伯東、倉本産業、デイトナ・インターナショナル、オービック、東京エレクトロ、超音波工業、オムニバス、進学／東京農工大学(37名)、東京工業大学

【化学システム工学科】日本原燃、王子ホールディングス、日本ビジネスシステムズ、山九、進学／東京農工大学(38名)

【機械システム工学科】宇宙航空研究開発機構、鉄道総合技術研究所、スズキ(5名)、NCホールディングス、大和総研、正栄食品工業、本田技研工業、トーハツ、ニチコン、ユニバルス、イリソ電子工業、三菱電機ビルテクノサービス、リコー、オロ、日本精工、栗田工業、東京精密、トヨタ自動車、東京ガスライフバル千葉、コニカミノルタジャパン、ルネサス エレクトロニクス、明治、FJネクスト、日本製鉄、王子ホールディングス、トンボ鉛筆、日産自動車、JFE条鋼、ヤマサ醤油、クボタ、牧野フライス製作所、竹中工務店、三共建設、自営業(税理士)、進学／東京農工大学(93名)、東京大学(5名)、東京工業大学、京都大学

【物理システム工学科】気象庁、世田谷区、サブスリー、東芝テリー、ニフティ、パナソニック、VSN、日立パワーソリューション、ミクニ、ライズ・コンサルティンググループ、マツダ、東芝デバイス&ストレージ、東京ロボティクス、本田技術研究所、ディスコ、宮地楽器、日本アイ・ピー・エム、進学／東京農工大学(28名)、東京大学(5名)、奈良先端科学技術大学院大学、首都大学東京、京都大学

【電気電子工学科】パーソルR&D、セイコーインスツル、リコー、エクス、ショーワ、本田技研工業、東京エレクトロ、大成建設、アメイズ、SUBARU、東海旅客鉄道、エクサ、東芝エネルギーシステムズ、富士ソフト、東京農工大学産学連携研究員、進学／東京農工大学(83名)、東京大学(5名)、東京工業大学(2名)、大阪大学

【情報工学科】アルファテック・ソリューションズ、ARアドバンステクノロジ、SCSK、くじら食堂、紀伊國屋書店、パナソニックシステムソリューションズジャパン、セラク、コムチュア、東芝デジタルソリューションズ、日本電気、ユー・フレーム、新光電気工業、富士インフォックス・ネット、富士フィルムソフトウェア、進学／東京農工大学(41名)、東京大学、東京工業大学

工学府

【生命工学専攻】横浜市、高等学校教諭、IDAJ、アステラス製薬、ディーエイチシー、スリーエムジャパン、東ソー、ACメディカル、生化学工業、資生堂、ジャスコエンジニアリング、トーアエイヨー、雪印メグミルク、ホワイトエッセンス、積水メディカル(2名)、中外製薬、AGCエンジニアリング、オムロンオートモーティブエレクトロニクス、島津製作所、みらかホールディングス、太陽ファルマ、デンカ、マイクロンメモリージャパン、日本エア・リキード、バイホロン、アクセンチュア、野村総合研究所、JXTGエネルギー、日本人試センター、住化分析センター、オリンパス、テクパン、アイコンジャパン、電通国際情報サービス、森永乳業、東京化成工業、ダイキン工業、パルクセル・インターナショナル、クラレ、パナソニック、出光興産、東ハト、リオン、アイシंक、クミアイ化学工業、進学／東京農工大学(3名)

【応用化学専攻】経済産業省、埼玉県、群馬県、SUBARU、日本カーバイド工業、コニシ、ソニー、三井化学、アグロカネショウ、武蔵エンジニアリング、JXTGエネルギー、アルプスアルパイン(2名)、東京応化工業、TDK、スズキ、テルモ、エンビジョンAESCエナジーデバイス、日本ケミコン、オン・セミコンダクター、リコー、京セラ、オリンパス、セイコーエプソン、日油、日本エビカ、東京エレクトロ、日本触媒、キヤノンメディカルシステムズ、デクセリアルズ、古河電気工業、HOYA、リンテック、福井村田製作所、ニチハ(2名)、三菱マテリアル、村田製作所、田島ルーフィング、エアウォーター、出光興産、横浜ゴム(2名)、王子ホールディングス、ゼンショーホールディングス、ニチアス、高砂香料工業、NOK、三菱ガス化学、ソニーLSIデザイン、横河電機、クラレ、カシオ計算機、東レ、日本データコントロール、JXエンジニアリング、コスモエンジニアリング、電源開発、アステラス製薬、東京ガス、マンダム、オルガノ、山九(2名)、東ソー、日本人試センター、ラッキーコーヒーマシン、日揮、アサヒ飲料、進学／東京農工大学(6名)

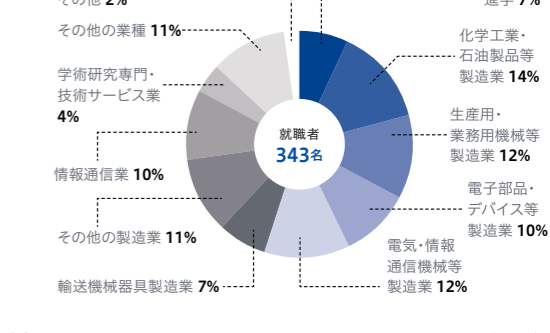
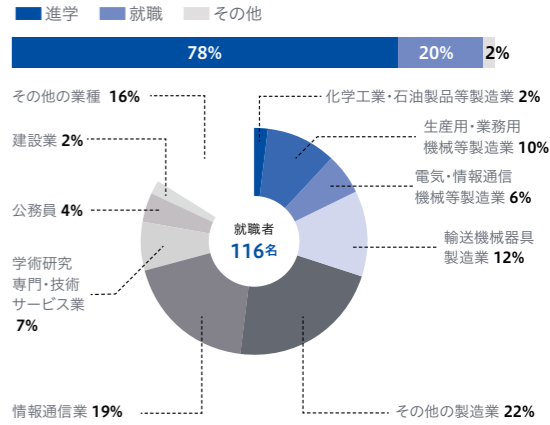
【機械システム工学専攻】宇宙航空研究開発機構、都市再生機構、日産自動車(3名)、住友重機械工業、オリンパス(3名)、ダイフク、川崎重工業(2名)、東日本旅客鉄道、小松製作所(3名)、IHI(2名)、オリエンタルランド、能美防災(2名)、日本発条、ヤンマー、シスメックス、マツダ、ソニー(2名)、日野自動車、NOK、トプコン、日立製作所、トヨタ自動車(3名)、ダイフク、サントリーホールディングス、KHネオケム、三菱電機(2名)、エス・ティ・ティ・データ・イントラマート、村田製作所、野村総合研究所(2名)、東京エレクトロ、AGC、日立オートモティブシステムズ、日本航空電子工業、東洋エンジニアリング、YKK、凸版印刷、オムロンスイッチアンドデバイス、NTTデータMSE、ヤマハ、日野自動車(2名)、東芝エレベータ、日本電気、電源開発、三菱重工業、クボタ、パナソニック、アズビル、日本テトラバックグループ、リコー、コクヨ、東海旅客鉄道、第一メカテック、進学／東京農工大学(5名)

【物理システム工学専攻】日本原子力研究開発機構、日本放送協会、三菱UFJ国際投信、新電元工業、キヤノン(2名)、日立、アズビル(2名)、ニコン、ホンダ、ソニー(2名)、JVCケンウッド、フジクラ、パナソニック、東京ウエルズ、ブリヂストン、JFEスチール、日産自動車、進学／東京農工大学(3名)

【電気電子工学専攻】特許庁、東京都(2名)、日本放送協会、スタンレー電気、東芝メモリ、オリンパス、アルケア、日本電気(2名)、スズキ、エス・ティ・ティ・データ、小松製作所(2名)、TDK、東京電力ホールディングス、富士電機、日本電産、日本信号、コンチネタル・オートモーティブ、クボタ(2名)、東芝エネルギーシステムズ、住友重機械工業、日本テキサス・インスツルメンツ、武蔵エンジニアリング、東芝三菱電機産業システム、大日本印刷、富士ゼロックス、ミハル通信、本田技研工業(2名)、アズビル、セイコーエプソン(3名)、ルネサンスエレクトロニクス、浜松ホトニクス、東芝インフラシステムズ(2名)、東北電力、横河計測、ロッテ、イー・アンド・エム(3名)、AGC、JVCケンウッド、横河電機、東日本旅客鉄道、エス・ティ・ティ・コムウェア、東芝、ソニー(2名)、ファナック、NTTファシリティーズ、電源開発、日野自動車、ニフティ、日立ハイテクノロジーズ、日産自動車、日立情報通信エンジニアリング、富士通(2名)、ディスコ、村田製作所、日立オートモティブシステムズ、進学／東京農工大学

【情報工学専攻】ACCESS、Cygames、日本電気、ディー・エヌ・エー、日立製作所(5名)、富士通、ヤフー(2名)、NTTデータ数理システム、ソフトバンク、本田技研工業(2名)、コナミグループ、セイコーエプソン、プログレス・テクノロジーズ、キヤノン、コンセプトアンドデザイン、住友重機械工業、トヨタIT開発センター、リコー(2名)、SCSK、シャープ、アルファポリス、東京海上日動システムズ(2名)、セガゲームス、リクルートR&Dスタッフィング、カカコム、日本アイ・ピー・エム、オッポジャパン、進学／東京農工大学(6名)、東京大学

【産業技術専攻】三菱伸銅、小松製作所、ジャパンディスプレイ、西日本旅客鉄道、三菱電機、鹿島建設、ヤマハ発動機、DMG森精機、日本航空電子工業、三菱ガス化学、マイクロンメモリージャパン、タカラベルモント、積水メディカル、カシオ計算機、日本取引所グループ、日立アプライアンス、ブリヂストン、住友電気工業、西武鉄道、日本航空、日清紡ホールディングス、日本製紙、工機ホールディングス、東京電力ホールディングス、セック、栗田工業、住友重機械工業、キヤノン、アグロカネショウ、トヨタ自動車、アスリートFA、マツダ、プラザー工業、三菱マテリアル、リオン、進学／東京農工大学



グローバル・プログラム

東京農工大学では、海外留学・国際交流プログラムの拡充にますます力を入れています。キャンパスでは受け入れ留学生と日本人学生の交流も盛んです。

留学で学んだ知識を生かし 自国の農業の発展に貢献したい!

カセサート大学 熱帯農業学科 3年
Ly Hour KHANNさん (バックトゥーク高校出身)



留学先
日本・東京農工大学
(2019年9月～2020年1月)

出身はカンボジアで、現在はタイのカセサート大学に在籍し熱帯農業学を学んでいます。東京農工大学を留学先に選んだのは、農業経済学を学ぶため。日本がタイと農作物の貿易を盛んに行っていることも理由のひとつでした。日本～タイ間での農産物の輸出入の現状について、また、農作物の生産にかかるコストを下げる方法について、東京農工大学で学びたいと思っています。将来の目標は、カンボジアの政府職員となり、ここで学んだ知識を生かして国の発展に貢献すること。カンボジアでは多くの国民が農業に従事していますが、そのほとんどが伝統的な手法を用い、プロセカークの搾取による貧困問題を抱えています。こうした課題を改善するため、農家の人々に科学技術やマーケティングの知識を教える人材を育てることが必要だと考えています。東京農工大学では、さまざまな経験を通し、友人と楽しみながら日本の文化も学んでいます。グローバル社会において、チームワークやリーダーシップ、文化を学ぶ「ソフトスキル」を習得することはとても大切です。留学をすることは、こうした力を鍛える魅力的な体験だと感じています。



AIMSプログラム、LaCEPプログラムに参加する友人たちと。パーベキューパーティーを開催した際の一枚

インドネシアの明るく楽観的な 国民性に後押しされた留学生活

農学部 地域生態システム学科 4年
高橋 諄さん (東京都立国分寺高校出身)



留学先
インドネシア・ガジャマダ大学
(2018年7月～2019年1月)

留学を決めた理由のひとつに、2年次の学園祭をきっかけに仲よくなったインドネシアからの留学生の存在があります。彼らにもう一度会いたいという強い思いが、留学を後押ししました。現地では植物学や生態学、農業経済学などの分野を幅広く履修しました。なかでも印象的だったのは、植物を栽培・収穫し、実験を行う授業です。その授業に行くには、大学から畑までをバイクで移動するのですが、私は現地のクラスメートのバイクに乗せてもらうことになりました。インドネシアならではのキャンパスライフにワクワクしたのを覚えています。また、英語やインドネシア語が飛び交う授業では、わからない単語があると現地の友人がとても親切に教えてくれました。現地での半年間は、語学や文化、環境の違いに戸惑うことばかりでしたが、人々の明るく楽観的な人柄に助けられ、乗り切ることができました。そんな国民性に触れ、帰国後は農学に限らず「さまざまなことに挑戦したい!」と前向きに考えるようになりました。今後は、農業や林業などの一次産業が抱える課題の解決方法を探りながら、若い人々に農業の「魅力」を伝えていきたいです。



カリマンタン島にて、滞在先の村人たちと。森林火災跡地での植林活動に参加しているところ

高大接続プログラム

高校生対象の「高大接続プログラム」に参加し、入学した学生が増えています。その体験者にプログラムの魅力や身についた力について聞いてみました。

多様な意見で学びが深まる グループ研究の面白さを発見!

農学部 環境資源科学科 1年
宮林真海さん (横浜市立横浜サイエンスフロンティア高校出身)

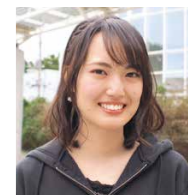


留学先
日本・東京農工大学
(2019年9月～2020年1月)

高校時代から個人的に「微生物の分解能力を利用したエネルギーの生成」に関する研究をしていて、このテーマを専門的に学べる学科や研究室がある東京農工大学に関心を抱いていました。そんなとき、農工大に進学した先輩からすすめられたのが、高大接続のIGSプログラム。高校2年次の12月と3月の計2回参加し、それぞれ実験やグループワークなどに取り組みました。印象に残っているのは、物理化学の実験パートで太陽電池の製作に取り組んだこと。グループでひとつの研究に挑戦するというのは新鮮で、メンバーの多様な意見によって学びが発展していく体験には、個人研究では得られない楽しさがありました。IGSプログラムを通じて、高校とはレベルの違う研究環境や同学年の参加者たちの意欲の高さから刺激を受け、農工大に進学したいという気持ちがより強固になりました。入学後の現在は、基礎的な知識習得の真っ最中。IGSプログラムでの経験を活かして、今後はグループ研究や研究留学にも積極的にチャレンジしたいと思っています。

英語を「聞いて話す」ことの 重要性を身をもって実感

工学部 生命工学科 1年
佐野歩実さん (東京都立戸山高校出身)



留学先
日本・東京農工大学
(2019年9月～2020年1月)

医療や暮らしにつながる研究に興味があり、東京農工大学を進学先の選択肢に入れていました。それを知っていた高校の先生からIGSプログラムのことを聞き、2年次の冬に参加。1泊2日で行われたプログラムには、課題を設定したグループワークや実験、英語演習といった多様な学びの機会が用意されていました。なかでも印象に残っているのは、英語で講義を行う「Science English」です。トウモロコシを用いてメンデルの法則の原理を学習した後、学んだ内容を英語で発表するという課題にも挑戦。なかなか頻繁にはできない経験でうまく英語に変換できないこともありましたが、グループのみんなと積極的に意見を出し合い、発表原稿をつくり上げていきました。発表の後は質疑応答の時間もあり、「読んで書く」だけでなく「聞いて話す」ことの重要性を身をもって実感できたのは、とても貴重な経験だったと思います。IGSプログラムに参加してみて、オープンキャンパスとはまた違った視点から農工大の雰囲気やグローバルな研究風景を知ることができました。ここで得た経験を、大学での本格的な研究につなげていきたいです。

英語で考えを伝える経験を通して「積極性」と「対話力」を身につけてほしい

グローバル教育院 アドミッション・専門基礎教育グループ 伊藤夏実准教授



東京農工大学では、高校生が大学の研究や実験を体験できる「高大接続プログラム」を通年で複数回、実施しています。これらのプログラムでは、毎回必ず、英語を使ったワークの時間を設けています。グローバル化が進む今後の社会において、理系学生にも英語力は必須なのは言うまでもありません。むしろ、理系の研究者こそ、英語で論文を発表したり、海外の研究者とコミュニケーションを取ったりする対話力が求められます。それを見据えて、高校時代から英語で自分の考えを論理的に相手に伝える経験をしてほしいのです。プログラムにより内容は異なりますが、参加した高校生たちは、実験動

画を説明するプレゼンテーション、グループでのポスター発表などにすべて英語で挑戦します。これらの作業は、農工大で研究生活を送る大学院留学生との協働で行います。ここで参加者に身につけてほしいのは、学びにおける「積極性」と「対話力」です。同世代の仲間と意見を交わしたり、英語でコミュニケーションをしたりする体験を通して、主体的に学ぶ意識が鍛えられます。この「積極性」と「対話力」は、受験勉強だけでなく、高校時代、ひいては大学生活のあらゆる場面で活かされることでしょう。

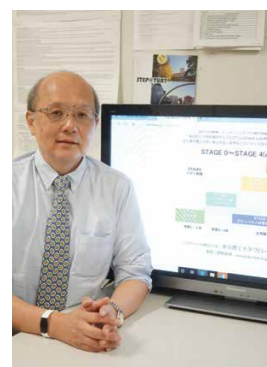
英語によるポスター発表に挑戦する参加者たち



※プログラムの詳細は、次ページ(裏表紙)で紹介しています。 11

学生一人ひとりに合う留学プログラムを用意しています!

グローバル教育院 海外リエソングループ 野間竜男教授



東京農工大学には、約30にも及ぶ多様な留学プログラムがあります。留学の目的や語学力、専門性に応じてSTAGE1～4までのプログラムを用意し、一人ひとりに最適な留学の機会を提供しています。この段階的なプログラムには、1回の留学で完結することなく、在学中に複数の留学体験をしてほしいという狙いがあります。例えば、1～2年次にSTAGE1の短期派遣プログラムで語学力を向上させ、3～4年次にはSTAGE2の Semester 派遣へ。研究室配属が決まったら、STAGE3の長期の研究留学やSTAGE4のダブルディグリープログラムなどに参加することも可能です。こんなふうにプログラムを活用してほしいです。日本学生支援機構などの奨学金を活用できるプログラムも多いので、積極的に挑戦してほしいと思います。

海外留学ポータルサイトはこちらから!→



東京農工大学の海外派遣プログラム

